

令和5年度 学校評価

4 そう思う ■ 3 どちらかといえば、そう思う ■ 2 どちらかといえば、そう思わない ■ 1 そう思わない ■ 0 わからない

①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)
<p>「3」「4」の割合が、保護者は87%（昨年度91%）、児童は92%（昨年度89%）、教職員96%（昨年度96%）と高評価であった。一方で、「2」「1」の割合が、保護者は10%（30人）、児童は4%（7人）であることから、今後も児童や保護者の思いに寄り添い傾聴し、合理的な指導や対応を心掛ける必要がある。</p>	<p>「3」「4」の割合が、保護者は91%（昨年度94%）、教職員は100%（昨年度と同様）と二者ともに高評価であった。今後も考え議論する道徳の授業づくりの他、学校教育活動全体で心の教育に努めるとともに、心かがやけ月間を中心に、親子道徳の日や道徳授業参観を実施したり、学校の取組を学校・学級だよりや学級懇談会等で保護者へ積極的に発信していく。</p>

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
<p>「3」「4」の割合が、保護者は93%（昨年度と同様）、教職員は96%（昨年度と同様）、児童は91%（昨年度83%）と高評価であった。さらに「1」「2」の割合が8%（昨年度15%）であった。オンライン授業も含め、教職員の授業力向上のための取組が高く評価されていると言える。すべての児童にわかる喜びを味わわせることができるよう、さらに授業力向上に努めたい。</p>	<p>「3」「4」の割合が、保護者は86%（昨年度89%）、児童は90%（昨年度87%）、教職員は82%（昨年度100%）であった。教職員の活用度に差があるため、今後も継続してタブレットの効果的な活用法や教材づくりについての研修を充実するとともに、ミニ研修等を定期的に行い家庭学習等のタブレット活用の機会を増やしていきたい。</p>

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
<p>「3」「4」の割合が、保護者は80%（昨年度87%）、教職員は86%（昨年度96%）と下降している。これは特別支援コーディネーターを中心とした学級担任と学級支援員等との連携や、心のサポート相談員、SC、SSW、外部の関係機関との連携・組織的な対応を継続している一方で、対応数及びその内容について増加・困難化している。専門機関との連携強化を図っていく。</p>	<p>「3」「4」の割合が、保護者は84%（昨年度87%）、児童は86%（昨年度82%）、教職員は93%（昨年度96%）であった。菊池支援学校との交流を通して経験を深め、社会性を養い、豊かな人間性を育むとともに、お互いを尊重し合う大切さを学ぶ貴重な機会として、今後も交流及び共同学習の充実に努めたい。またわからないと回答した保護者は11%（33人）であることから、交流及び共同学習についての啓発を行う必要があると思われる。</p>

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>「3」「4」の割合が保護者は84%（昨年度89%）、児童は89%（昨年度87%）、教職員は93%（昨年度96%）と高評価であった。学校の安全教育への取り組みやスクールサポーターによる見守り、青パト隊による放課後パトロール等が高く評価されていると言える。今後も学校安全計画に基づいた安全教育のさらなる充実、必要に応じて学校安全計画や危機管理マニュアルの見直し等を行うことで、事故防止に努めたい。</p>	<p>「3」「4」の割合が保護者は82%（昨年度87%）、教職員は89%（昨年度96%）と高評価であった。今年度は感染症対策を講じつつ、工夫しながらコロナ前に行われていた各種行事を実施したり、家庭や地域と連携した取組が実施することができた。また、PTA主催イベント「城千灯」や防災訓練、地域主催のさわやかフェスタなど大変好評で、多くの親子連れの参加が見られた。今後も、学校・家庭・地域が一体となり、地域に応じた特色ある教育活動をすすめていきたい。</p>

⑤ 本校の教育

9 あいさつ	10 公共心・勤労・奉仕
<p>子どもは、地域や学校であいさつができていますか。</p>	<p>子どもは、学校（家庭）で、はきものそろえや無言掃除やボランティアができていますか。</p>
<p>「3」「4」の割合が、保護者は82%（昨年度80%）、児童は88%（昨年度84%）である一方で、教職員は63%（昨年度60%）と各所属で微増しているものの昨年度同様認識に差に開きがあった。今後も学校を挙げて一斉挨拶運動の実施や日常的なあいさつの推進、PTAや地域と連携、また児童会を中心としたあいさつ運動等に取り組む必要がある。</p>	<p>「3」「4」の割合が、保護者は72%（昨年度と同様）、児童は74%（昨年度67%）、教職員は63%（昨年度60%）であった。落ち葉の多い季節になると、昼休みや夕方に落ち葉掃きをする、中・高学年の姿がしばしば見られた。さらに低学年においては、学年全体で校庭掃除に取り組むなどボランティア意識を高める活動に取り組んでいる。今後も継続して靴やトイレのスリッパをそろえることの習慣化や無言掃除・ボランティアの推進に努めていきたい。</p>

⑤ 本校の教育

11 規律	
<p>子どもは、きまり（宿題をする、時間を守る、やっではないけないことをしない）を守っていると思いますか。</p>	
<p>「3」「4」の割合が、保護者は82%（昨年度81%）、児童は81%（昨年度75%）、教職員は74%（昨年度76%）であり、「4・そう思う」の項目では三者間の開きが大きい。登下校の様子や放課後の遊び方について、今年度も地域住民等からの苦情が多く寄せられており、生徒指導部を中心に対応している。今後も、教職員・児童・保護者間で成果と課題を共有しスクールサポーター等を活用しながら、家庭や地域と連携して児童の規範意識を高めていきたい。</p>	